

12年ぶりの全国大会に出場



榊原 民雄 さん  
(十二林1区/62歳)

榊原さんは、10月14日から16日に兵庫県神戸市を主会場に開催された「第6回全国障害者スポーツ大会(のじぎく兵庫大会)」に秋田県代表として参加しました。1000m走と走り幅跳びの2種目に出場した榊原さんは、1000m走で銅メダル、走り幅跳びで銀メダルの2つのメダルを獲得しました。

学校を卒業して就職したすぐのころ、仕事上の事故で左足に障害を負ってしまったのですが、40歳くらいになるときに知人から走ることを勧められました。

数年後に県の大会に出場するようになり、平成6年には名古屋市で行われた「第30回全国身体障害者スポーツ大会」に県代表として出場し、1000m走と走り幅跳びで2つの金メダルをとることができました。今回も同じ種目で、12年ぶりの全国大会出場でした。一緒に走った人たちは、みんな自

分よりもずっと若く、体が大きい人たちでした。無我夢中で走った結果が、1000m走で銅メダル、走り幅跳びで銀メダルというお土産を持って帰ってこれたことに満足しています。それに、12年前の大会で、同じ秋田県代表として出場した方が、いまは大阪に住んでいて、応援に来てくれたことに感激しました。久しぶりの再会に二重の喜びでした。

たくさんさんのボランティアに支えられました

向こうの会場では私たち選手一人ひとりにボランティアの方が二人くらいずつついてくれました。お陰で、会場内ではどこに行くにも案内してくれて、困ることなく競技に集中することができましたね。特に高校生など、若い方のボランティアが多く、会場も明るい雰囲気になっていました。



大会会場でボランティアの高中生と団員写真

来年は、秋田県が国体の会場です。もし、また大会に参加する機会を与えてもらえたら、ぜひ頑張りたいと思います。

# ぐんま

## ふるさと

地区紹介

### Part 2 平沢地区 (仁賀保地域)

芹田/三森/鈴/平沢  
琴浦/室沢/両前寺

前回に引き続き、平沢地区7集落名の由来などを紹介します。

【芹田】  
芹田は、以前は関田村と呼び、字六坊の付近にあったといわれています。関田村を芹田村と変えた時期には二説があって、一説は、応仁元年(1467)仁賀保祖大井伯耆守が下降のときに従った臣の一人、芹田伊代守に関田村の館を守らせ、芹田館と称したことから芹田村と改めた説と、もう一説は天正17年(1589)芹田伊与守が関田村より移ったときの説があるが、定かではありません。



【三森】  
三森は、えびす森、古四王森、山王森の3つの森に由来する地名ですが、山王森と呼ばれる海浜に突き出した丘に登って見ると、真北に男鹿半島の寒風山、西に飛鳥、真南には鳥海山が望まれます。その鳥海山を目印にして帆船が北に南にと動いた時代、三森は重要な港の一つでした。また、山王森は日和山の名こそありませんでしたが、北前船の寄港地である酒田の日和山などと同じように、老練な船びとが風の方角を見極め潮の具合をはかつて船が港に出入りするための判断をしたところで、方角石がありました。

【異色の画人 増田九木】  
九木は、天明2年(1782)三森の紺染屋太兵衛の家に生まれ、幼少より画才があつたといわれています。当時、三森の港は、廻船の発着が盛んで、九木はいち早く上方文化の刺激を受けました。京都に数年いた後、絵筆をとりながら流浪の旅を続け、越後の出雲



崎にたどり着き、名僧良寛や南画家剣路雲泉と出会いました。

雲泉作の山水等は落款を見なければ九木の作と間違ふほど良く似ており、いかに九木が師の雲泉に傾倒していたかが伺い知れます。九木は、この地では「三森九木」と呼ばれていたようです。

九木が出雲崎から郷里に帰ったのは53歳ころとありますが、定かではありません。九木の絵は数百点におよぶといわれ、出雲崎からの帰路、新潟や庄内地区の豪農や名主等の家に泊まり重ね、

描き続けたものも数多く見られます。仁賀保地域にも百点くらいはあるものと思われています。



「良寛の賛てまりの図」(新潟県分水町良寛資料館所蔵)



小砂川保育園  
ゆりくみ(年長)

みんなで、うらやまにさんぽにいったら、緑のはっぱがきれいな色にへんしんしていたよ。ススキやドングリ、あかいきのみやはっぱをあつめて、がようしにえをつくったの。カブト虫、オンパッタ、ウサギ、クマ、ネコ。おへやがどうぶつたちでいっぱいになったんだ。

チビッコ美術館  
じょうずにできた!

